

事業 173	補助金 の名称	射水市指定宅地取得支援助成金事業				担当 部署	部名	都市整備部	
							課名	都市計画課	
						電話	52-7390		
総合計 画	施策の大綱	第4部 快適で安心して暮らせるまち			予算 科目	会計	一般会計	款	土木費
	政策名(章)	第3章 快適で住みよいまちづくり						項	都市計画課費
	施策名(節)	第1節 魅力的な住宅環境の充実						目	都市計画総務費
補助期間		平成 17 年度 ~			平成		年度		
根拠法令・要綱等									

事業 目的	対象 (交付先)	自らの居住のために宅地を購入した方						
	意図 (補助目的)	市での定住人口の増加と良好な住宅団地の形成を図る。						
事業 内容	手段 (主な活動)	市が指定する住宅団地において自らが居住するために、土地を購入し当該土地の取得から1年以内に住宅を建設し居住した方又は住宅付土地を購入し当該土地の取得から1年以内に居住した方で、土地等の取得から1年以内に申請手続きをされた方に対して、取得した土地面積1平方メートル当り2,600円を乗じて得た額(その額が60万円を超える場合は60万円)を3ヵ年に分けて助成する。						
		類 型 区 分	団体運営費補助 格差是正補助	事業費補助 利子補給	施設等整備費補助 その他()	政策的補助		

成果 指標	指標名	単位	H20年度 実績	H21年度		
				目標	実績	達成率
	指定宅地取得支援等による住宅建築充足率	%	72%	75	77	102.7

交付実績	平成19年度		平成20年度		平成21年度		
	(金額)	30,236 千円	(金額)	7,778 千円	(金額)	8,200 千円	
	(件数)	53 件	(件数)	15 件	(件数)	41 件	
	補助区分	内 容				上限額	
	定額補助	取得した土地面積1平方メートル当り2,600円を乗じて得た額				60 千円	
定率補助	上限額は、補助区分が「定額補助」、「その他」のみ記載						
その他							

評価項目	点数	説 明
妥当性	1	対象となる宅地は、土地区画整理事業や民間開発により造成された土地で完成後数年経過した土地を対象としており、良好な住宅団地形成を図るためには必要な事業である。しかし、補助基準等について見直す余地はあると考える。
有効性	3	申請件数は昨年よりは減少しているものの、景気悪化により住宅の着工件数自体が減少しているためと予測されることから、一定の成果があると判断される。
効率性	3	本事業は、土地の面積に対しての助成金であり、現時点では補助金に対する効率性については、特に問題がないと判断される。

評価結果	評価結果を踏まえた今後の方針 (改善内容)
C	指定される前に同じ住宅団地で土地等を取得した方と不公平感はあるが、定住人口の増加促進や団地内の空き地等を解消することにより、良好な住宅団地形成には有効である。今後は施策の目的や対象者を明確にし、求められるニーズに絞り込んだ補助基準の見直しも検討していきたい。

事業 174	事務事業名	地籍調査費				担当部署	部名	都市整備部	
							課名	都市計画課	
						電話	52 - 7390		
総合計画	施策の大綱	第4部 快適で安心して暮らせるまち			予算科目	会計	一般会計	款	土木費
	政策名(章)	第2章 快適で利便性の高いまちづくり						項	都市計画費
	施策名(節)	第1節 特性を生かした土地利用の推進						目	都市計画総務費
事業開始・終了年度		平成 17 年度			~		平成 - 年度		
根拠法令・要綱等		国土調査法							
計画掲載		射水市総合計画実施計画	有	16	頁	個別計画			

事業目的	対象 (誰を・何を)	現地と公図の整合がとれていない地図混乱地区
	意図 (どのような状態に)	地図混乱地区の公図を、最終的には、現地と整合のとれた地籍図にする。
事業内容	手段 (どのような方法で)	国土調査法に基づく地籍調査事業の実施

成果指標	指標名	単位	H20年度実績	H21年度			H22年度目標	H 28 年度	
				目標	実績	達成率		最終目標	達成率
	射水市地籍調査事業	km ²	0.06	0.33	0.33	100.0	0.42	0.9	17.0%

活動指標	指標名	単位	H20年度実績	H21年度			H22年度目標
				目標	実績	達成率	
	射水市赤井野田・屋敷地区地籍調査事業	km ²	0.01	0.15	0.15	100.0	0.16
	射水市島地区地籍調査事業	km ²	-	-	-	-	0.05
	射水市川口宮袋入会地地区地籍調査事業	km ²	0.05	0.18	0.18	100.0	0.21

事業費・人員	事業費		H20決算	H21決算	伸率	H22予算
	事業コスト	直接事業費	4,718 千円	12,186 千円	158.3	7,484 千円
財源内訳	人件費	4,485 千円	4,420 千円	1.4	4,420 千円	
	退職手当引当金相当額	650 千円	650 千円	0.0	650 千円	
	事業コスト計	9,853 千円	17,256 千円	75.1	12,554 千円	
	国県支出金	2,782 千円	8,415 千円	202.5	4,027 千円	
	その他	千円	千円		千円	
	一般財源	7,071 千円	8,841 千円	25.0	8,527 千円	
当該事務従事職員数		0.65 人	0.65 人	0.0	0.65 人	

評価項目	点数	説明
必要性	4	現地と公図の整合がとれていない地図混乱地区においては、土地の実態を把握できない箇所が多く見受けられる現状にあることから、様々な土地の問題を未然に防ぐためにも、今後とも推進していく必要はある。
有効性	4	地図が正確になることで、地震や水害等の災害が起こった際、復旧に伴う事業の円滑化が図られ、加えて土地管理の適正化や土地に関する境界等の紛争防止、及び土地取引が円滑に行える等、経済活動全体の活性化にもつながる。
達成度	3	個々の土地における問題の難易度や実施面積、及び関係者の協力体制等状況にもよるが、要望地区においては順次完了している。
効率性	4	要望地区においては順次完了しており、今後も推進していく必要があると考える。

評価結果	評価結果を踏まえた今後の方針 (改善内容)
A	今後においても、地籍調査を推進する。

事業No.	事務事業名	街路事業費				担当部署	都市整備部
175						課名	都市計画課
						電話	52-7390
総合計画	施策の大綱	第4部 快適で安心して暮らせるまち			予算科目	会計	一般会計
	政策名(章)	第2章 快適で利便性の高いまちづくり					
	施策名(節)	第4節 地域をつなぐ道路網の整備					
事業開始・終了年度	平成 7 年度		~		平成 一 年度		
根拠法令・要綱等							
計画掲載	射水市総合計画実施計画	有	16	頁	個別計画		

事業目的	対象(誰を・何を)	道路利用者	総事業費(千円)	
	意図(どのような状態に)	狭小な幅員と桁下高さの制限による慢性的な交通渋滞を解消するとともに、快適で安心して歩ける歩行空間の整備を行う。	財源内訳	
事業内容	手段(どのような方法で)	<ul style="list-style-type: none"> ・(都)二口北野線の(主)高岡青井谷線との交差点~(主)富山高岡線との交差点までの延長946mの道路拡幅工事 ・(都)東老田高岡線 延長1,450mの景観整備工事 	国庫支出金	
			県支出金	
			市債	
			その他	
	一般財源		0	

活動指標	指標名	単位	H20年度実績	H21年度			H22年度目標
				目標	実績	達成率	
①	(都)二口北野線道路整備 ※延長は事業費ベースによる換算延長	m	58	60	60	100.0	149
②	(都)東老田高岡線景観整備 ※延長は、実施延長	m	150	158	158	100.0	-
③							

整備内容	平成20年度	平成21年度	平成22年度(計画)
		<ul style="list-style-type: none"> ・(都)二口北野線道路整備工事負担金 ・(都)東老田高岡線景観整備工事 	<ul style="list-style-type: none"> ・(都)二口北野線道路整備工事負担金 ・(都)東老田高岡線景観整備工事

事業費・人員	事業費	H20決算	H21決算	伸率	H22予算
	直接事業費	90,322 千円	155,046 千円	71.7	217,529 千円
人件費	3,036 千円	1,632 千円	▲ 46.2	1,292 千円	
退職手当引当金相当額	440 千円	240 千円	▲ 45.5	190 千円	
事業コスト計	93,798 千円	156,918 千円	67.3	219,011 千円	
財源内訳	国県支出金	0 千円	0 千円		0 千円
	その他	90,000 千円	146,500 千円	62.8	206,600 千円
	一般財源	3,798 千円	10,418 千円	174.3	12,411 千円
	当該事務従事職員数	0.44 人	0.24 人	▲ 45.5	0.19 人

評価項目	点数	説明
妥当性	4	幹線道路ネットワークの形成等交通体系の整備を図るとともに、快適で安心して歩ける歩行空間の整備、高齢者等交通弱者にやさしい快適でうるおいのある道づくりのために必要な事業である。
有効性	4	(都)二口北野線整備事業の完成により、JR高架部付近の狭小な幅員と桁下高さの制限が解消され、慢性的な交通渋滞を解消し、円滑な交通を確保できることから、事業完了後に期待される効果は高い。
達成度	3	(都)二口北野線整備事業の当初計画では22年度の完成目標が25年度になる見込みであるが、JRより南側については約280mの道路改良工事が完成し、22年度からJR高架部のBOXカルバート工事に着手するなど順調に進捗している。
効率性	3	従事人員の配置としては適正であると判断されるが、他の公共工事と同様に契約方法の見直し等によるコスト低減に向けた工夫の余地がある。

評価結果	評価結果を踏まえた今後の方針(改善内容)
A	(都)二口北野線は、本市における重要な幹線道路であり、JR高架部付近で生じている慢性的な交通渋滞の解消のために一日も早い工事の完成が望まれており、本市重点事業としても要望している。今後も富山県と調整を図りながら、早期完成に向けて適切な事業の実施に努めることとしたい。

事業	事務事業名	まちづくり交付金事業費				担当部署	都市整備部	
176						課名	都市計画課	
						電話	52-7390	
総合計画	施策の大綱	第4部 快適で安心して暮らせるまち			予算科目	一般会計	款	土木費
	政策名(章)	第2章 快適で利便性の高いまちづくり					項	都市計画費
	施策名(節)	第2節 個性あるまちづくりの推進					目	まちづくり交付金事業費
事業開始・終了年度	平成 17 年度 ~ 平成 26 年度							
根拠法令・要綱等	都市再生特別措置法(平成14年法律第22号)・まちづくり交付金交付要綱							
計画掲載	射水市総合計画実施計画	有	16	頁	個別計画	まちづくり交付金事業		

事業目的	対象(誰を・何を)	全市民及び観光客	総事業費(千円)	1,203,000
事業内容	意図(どのような状態に)	まちなかに暮らす人や訪れる人が魅力的だと感じるような個性あるまちづくりを進め、市街地の定住人口維持と観光客増加につなげて都市の賑わいを再生する。	財源内訳	
	手段(どのような方法で)	・内川沿い遊歩道、橋梁及び観光交流施設の整備等 ・下条川沿い遊歩道、橋梁の整備等 ・その他、事業計画区域内の道路、公園及び歩道橋の整備等 ・上記のハード整備に関連した、地域イベントの開催並びに支援等のソフト事業	国庫支出金	481,200
			県支出金	
			市債	685,710
			その他	
			一般財源	36,090

活動指標	指標名	単位	H20年度実績	H21年度			H22年度目標
				目標	実績	達成率	
活動指標	通りの歩行者数(小杉地区第一期計画 下条川散策路の通行人数)	人/日	従前値H16d 100	120	180	150.0	-
	観光客入込数(小杉地区第一期計画 地区内の観光施設・イベントの集客数)	人/年	従前値H16d 14,742	15480	24481	158.1	-
	地区内居住人口数(小杉地区第一期計画 地区内の居住人口数)	人	従前値H16d 8,794	8800	9193	104.5	-

整備内容	平成20年度	平成21年度	平成22年度(計画)
	【新湊地区】 ・川の駅建築工事 ・中新橋架替工事 等 【小杉地区】 ・市道三ヶ79号線歩道橋工事 ・藤井右門公園整備工事 等	【新湊地区】 ・市道新湊51号線照明灯設置工事 ・市道庄西28号線道路改良工事 等 【小杉地区】 ・下条川散策路舗装整備工事 ・市道太閤山702号線道路改築工事 等	【新湊地区】 ・市道新湊2号線(茂八橋)道路改良工事 ・市道中央町緑町線道路改良工事 等 【小杉地区】 ・情報案内板設置工事 ・岡山公園整備工事 等

事業費・人員	事業費	H20決算	H21決算	伸率	H22予算
	直接事業費	457,378 千円	198,643 千円	56.6	177,160 千円
人件費	18,837 千円	13,872 千円	26.4	14,212 千円	
退職手当引当金相当額	2,730 千円	2,040 千円	25.3	2,090 千円	
事業コスト計	478,945 千円	214,555 千円	55.2	193,462 千円	
財源内訳	国庫支出金	179,780 千円	90,000 千円	49.9	63,560 千円
	その他	249,900 千円	99,300 千円	60.3	107,900 千円
	一般財源	49,265 千円	25,255 千円	48.7	22,002 千円
当該事務従事職員数	2.73 人	2.04 人	25.3	2.09 人	

評価項目	点数	説明
妥当性	4	地域の特色(歴史・文化・自然環境)を活かした個性あふれるまちづくりを進め、地域経済の活性化と生活環境向上による定住人口維持を目的としており、空洞化が進むまちなかに賑わいを再生するために必要な事業である。
有効性	3	行政側による道路・公園等の既存施設整備により目標は達成されているが、今後はさらに住民や民間団体と連携・協力した官民協働によるまちづくりを推進する必要があり、民間活力の導入に向けた施策も検討する余地がある。
達成度	4	小杉地区第1期計画では、設定した三つの指標全てで目標が達成された。今後もさらなる賑わいを創出し、魅力あるまちづくりを進めるため、対象面積を広げた第2期計画(平成22~26年度)による事業が採択されている。
効率性	3	新湊地区(451ha)、小杉地区(228ha)の2地区を1係3名で担当しており、従事人員の配置としては最小限度であると判断されるが、工事発注等に関しては、契約方法の見直し等によるコスト低減に向けた工夫の余地がある。

評価結果	評価結果を踏まえた今後の方針(改善内容)
A	本事業は、地区ごとに定めた「都市再生整備計画」により5ヶ年程度の期限を設け、計画策定時に指標を設定し、完了時に事後評価を行っている。完了した計画の点検・検証結果を踏まえ、現在実施中の計画や新規計画を進めることによって、これまで一定の成果をあげており、今後も適切な事業の実施に努めることとしたい。